

作成日：R4年5月27日

令和4年度第2回 高松圏域自立支援協議会 運営会議議事録

日付	令和4年5月13日（金）
時間	9：20－10：45
開催会場	Zoom
参加機関等	香川県立中部養護学校、香川県立高松養護学校、高松市障がい福祉課、三木町介護福祉課、かがわ総合リハビリテーション成人支援施設、障害者就業・生活支援センターオーブ、障害者地域生活支援センターほっと、障害者生活支援センターたかまつ、相談支援センターりゅううん、発達障害者支援センターアルプスカがわ、地域生活支援センターこだま、支援センターgaryu、相談支援事業所ライブサポートセンター、高松市社会福祉協議会訪問介護事業所、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計 17名

議題 1：日本相談支援専門員協会主催オンデマンド研修「テーマ：障害福祉とこれからの防災」視聴後意見交換

議事	<p>【感想・意見等 一部抜粋】</p> <ul style="list-style-type: none">・平常時には困らない事でも災害時には困ることがあり、そのことに気が付くことができた。・利用者の経済面や精神面によっては避難所から地域に戻るまでにかかる時間に差が出るようになった。・実際に行動してみないとわからないことがあると感じた。避難時に車いすが必要となった場合、車いすの利用経験が無ければ安全に乗れるかがわからない。車いすの活用が難しい場合にはリアカーなど他の方法を考え試しておくことも大切だとわかった。・避難先がわからない人もいることがわかった。・実際の経験談を聞くことで他人事ではないと改めて感じた。関わりのある支援者が近くに必ずいるわけではないので、近隣住民との繋がりを作ることも支援者の役割だと感じた。・香川県は災害を我が事と考えている人が少ない。震災は揺れが収まれば駆けつけることができるが災害の種類によっては駆け付けることが出来ない事も想定される。そのために近隣住民の助けが必要になる。
----	---

	<p>・地域住民との繋がりを持つためには地域行事で繋がりを作ることに、地域住民と関わりが多い支援機関に関係を取り持っていただくことも考えられる。土台作りとして地域住民向けに啓発活動をおこない、障がいについて正しく理解していただくことが大切だと感じる。高齢者には民生委員が関わるが、障がい者には地域と繋がるきっかけが少ない。</p> <p>・避難できず亡くなった方の事例で、近隣住民は障がいを持つ方が住んでいることを知っていて心配していたが声をかけるべきかわからず過ごしていた。葬儀にたくさんの方が参列され、その時初めて近隣住民の気持ちを知ることとなった。地域と繋がるためには様々な手法を試していくことが大切だと感じた。</p> <p>・お住まいを訪問し防災マップを見るが、地域の実情がわからない。地域での避難訓練に参加することが効果的だと感じるが、労力的にも全員取り組むことは難しい現状がある。</p> <p>・地域によって災害時計画、防災訓練の実情に差がある。あまり具体的に進んでいない地域にも地域の事情があるようだ。</p> <p>・災害発生時間によっては通勤時間や就労時間に被災することも想定される。これを機にハザードマップ改めて確認した。相談時には個別に対応等を確認していく必要性を感じた。</p> <p>・特別支援学校には自身で判断することが難しい児童生徒も多い。登下校中に被災する可能性もあり、町で困った時に誰に声を掛けたら良いか事前に考えることや自身で発信する力を育てる必要性も感じた。</p> <p>・高松市では災害対応の手引きでも避難行動要支援者登録を働きかけている。登録すれば平常時の見守り、災害時に情報提供なども地域で受けることができる。災害の規模や地域の実によっては支援が保証されるものではないがツールとして活用し、地域で支援が必要な方がいることを知ってもらうこと必要だと考えている。</p> <p>・地域コミュニティの防災部会で避難訓練などの活動を行っている。実際にやってみる事で障がい児者が避難してきて過ごせるのかなど確認できる 重度 電源や食料確保なども課題、避難先で過ごすことができるのか。難しい場合にはどのような避難方法があるのかも考える必要がある</p>
--	---

議題 2：今年度の運営会議進行について	
議事	<p>今年度運営会議の進行案 別紙あり</p> <p>定例とする各部会からの報告や事務局からの報告以外に、①～⑤については年間スケジュールに沿って時間を確保し、協議・共有の場を設ける。</p> <p>① 災害時を見据えた障がい者の支援をどのように展開するべきか。 運営会議開催時 45 分協議・共有の時間を設ける。</p>

	<p>委員構成は現在の運営会議メンバーに加え、各行政関係課やオブザーバーとして高松市社会福祉協議会に協力していただくことも考える。</p> <p>各市町での取り組みについて情報整理をおこない、一般県民向けに普及啓発できる取り組みを検討する。</p> <p>6月の運営会議にて事務局より年間計画を示す。</p> <p>② ヘルパーの横の繋がりを作り、地域課題の対応方法について検討する。</p> <p>6, 8, 11, 2月の運営会議にて20分協議・共有の時間を設ける。</p> <p>居宅支援事業所連絡会は研修や情報共有の場を年3回程度設けることとし、内容や方法を検討していく。</p> <p>地域課題を運営会議に持ち込んでいただき協議していく。</p> <p>③ 障がい児支援に係る地域課題を解決するために、こども支援部会とその他の専門部会の連携を密にする。</p> <p>9, 12月の運営会議にて20分協議・共有の時間を設ける。</p> <p>子ども部会、発達障害者支援部会、医療的ケア部会の部会長で部会の連携について協議をした。6月の運営会議にて今年度の方向性を報告する。</p> <p>④ 就労支援をより効果的なものにするために専門部会間の連携を密にする。</p> <p>3月の運営会議にて20分協議・共有の時間を設ける。</p> <p>高校在学者以外の就労継続支援B型利用希望者の就労アセスメント方法の再検討が必要。情報共有やケースの後追いが不十分な状況。B型事業所連絡会や精神障害者支援部会、発達障害者支援部会との連携が必要だと感じている。</p> <p>⑤ ピアサポート活動の実際を知ろう。</p> <p>1月の運営会議にて35分協議・共有の時間を設ける。</p> <p>高松市におけるピアサポート活動の取り組みを共有する機会を作る。</p> <p>今まで精神障害者支援部会中心であったが、身体障害者支援部会にも協力してもらいたい。</p> <p>高松圏域協議会だけに限らず香川県の動きや高松市障がい者基幹相談支援センターの取り組みも合わせて共有していくことでよりイメージしやすくなると考えている。</p>
決定事項	各部会からの報告は昨年度に引き続き書面で提出いただき、当日口頭報告いただくこととする。

議題 3 : 各部会より	
議事	○身体障害者支援部会より ・部会長の交代（支援センターあい内で）について了承。
決定事項	本日の運営会議にて承認する

議題 4 : 事務局より	
議事	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援研修 申し込み受付中 5月30日開催予定 定員20名に対し現在38名の申し込み 定員を増やすや対象を絞るか検討する ・主任相談支援専門員研修受講者の選定 昨年度作成した推薦ガイドラインを再確認いただき、6月運営会議にて検討する ・令和4年度 全体会について 参加者が多いため第1回全大会はメールでの意見交換としたい 昨年度の各部会進捗状況の資料を中心に、部会再編の話等をする予定 ・協議会の委託費について 残金は市町と委託契約変更し返還手続きが完了した。 ・協議会 Zoom の活用について 6月頃からZoomアカウント運用開始予定 利用希望者は高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点へ希望日時を 申告し Zoom ホストをおこなう。
今後の動き	